



鹿児島県立大口高等学校 同窓会通信

忠元 TADAMOTO

1
January
2024



新年、会長・校長・各支部会長挨拶
大口高校 OB の活動
大口高校生の活動



「大口高校同窓会ホームページをみんなが集う“広場”に」



鹿児島県立大口高等学校同窓会
会長 出木場 洋

新年、明けましておめでとうございます。去年はコロナも終息しないうちに、世界ではウクライナ、中東、と悩ましい事態がおき

ています。大口高校は、2022年11月26日に無事、創立100周年式典を終え、記念誌、記念名簿、記念碑、なども作成することが出来、感謝申し上げます。役員一同、次の110周年に向かって、新しい同窓会の運営にチャレンジしておりますが、少子化問題、同窓会運営費など悩ましいところです。

私自身、同窓生は、世界、日本、九州、鹿児島県、伊佐市、大口高校と焦点を絞り(ふるさと)を思い、学生たちは、大口高校(ふるさと)から世界へ焦点を広げて、活躍され、いつの日か(ふるさと)をふと思い出して頂くために、同窓会は何が出来るか、自問自答する1年でした。

吉満校長先生も、生徒のために、地域のために、と今までにない企画にチャレンジしておられ、頭の下がる思いです。

いろいろと悩みますが、同窓会は、先輩、後輩、先生、父兄、生徒が集う“広場”と

しての役割が一番大事ではないかと考えます。広場にみんな集まり、何気ない会話があり旧交を温めあい、そこから再び自分を発見して歩き出し、再会を楽しみに出来る広場でありたいと考えます。

この広場こそ、新しい時代は、ホームページであろうかと思えます。去年一年は準備段階でしたが、ようやくホームページの充実も少し進みました。ホームページも同窓生の吉海君(昭和61卒)が、東京、関西同窓会、そして、大口高校と情報交換しながら充実したホームページ作成に頑張ってもらっています。是非、いろいろな情報(例、〇〇年度の同窓会など)を提供してください。

吉満校長と、出来る事を、出来る時に、出来るだけ、の精神でがんばるしかないと話しています。

最後に、みなさまにとりまして、今年一年がよい年でありますように、祈願申し上げ、新年のご挨拶といたします。

「新たな挑戦」



鹿児島県立大口高等学校
第27代校長 吉満庄司

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様におかれましては、健やかなお正月を迎えられたことと存じます。本年が、皆様にとってよい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、昨年1年間を振り返りますと、まさに「新たな挑戦」の年でした。創立100周年という大きな節目を経て、次の100年に

向けての第一歩をスタートしました。新型コロナウイルス感染症はようやく収束の兆しを見せ始め、これまでの「コロナだから何もできない」「コロナだから何もしない」というスタンスから、「コロナでもできることをやってみる」「今だからこそやってみる」という攻めの姿勢で新しいことに挑戦しました。

まず取り組んだのは文化祭です。昨年度までコロナ禍のため生徒と職員だけで開催していた文化祭を、感染拡大防止策をとりながら4年ぶりに保護者や同窓生だけでなく、小中学生や一般市民にも学校を開放して大々的に開催しました。バザー部門では地域の伊佐石窯マイスターのピザ焼き体験をはじめ、キッチンカーや伊佐農林高校など多くの団体に来店してもらい、大勢の方々が来場され大いに盛り上がりました。中学生たちが、「大口高校は楽しいね!」と話している姿が印象的でした。

次は「大口高校米(マイ)クッキー」の開発と各種イベントでの販売です。3年生の女子生徒が「総合的な探究の時間」で取り組んだ伊佐米で作った米粉のクッキー

が、新聞にも大きく取り上げられるなど大きな反響をよびました。「伊佐市ふるさとまつり」や「大口酒造 新焼酎祭り」など地域のイベントをはじめ、夏休みには鹿児島市天文館のセンテラスクエアで開催された「高校生マルシェ」に普通科高校で初めて出店し、クッキーの販売を通して大口高校と伊佐市を大いにPRしてきました。

それから、大口高校が地域の皆様に愛される学校であり、地域とともに歩む学校であり続けるべく、「大口高校ふるさと歴史講座」という市民講座を開催しました。前例も予算も全くない中での挑戦でしたが、スラムダンクの名言のとおり「あきらめたらそこで試合終了」ですので、講師は同窓生などに相談し無報酬で引き受けていただくことで実現させました。蓋を開けてみると、定員を遙かに超える方々が受講され、会場の大会議室は満員御礼状態でした。最後に、今年も九州電力のテレビCMではないですが、「(大口高校の活性化のために)できることは全てやる」という姿勢で粉骨砕身頑張ります。同窓会の全面的な御支援をよろしくお願い申し上げます。

「新しい年の同窓会開催に向けて」



大口高等学校東京支部同窓会
幹事長 山崎祥一

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

辰年の本年は、1月1日 PM4時10分に発生しました能登半島地震という思いもかけない天災に見舞われ死者221名、安否不明者24名（1月14日現在）と多くの犠牲者を出しました。心よりお悔やみを申し上げます。コロナ禍も、取まり通常の生活に戻りつつある中での惨事に心が痛みます。さて私共【大口高校東京同窓会】も令和3年に70周年を無事に迎え70周年記念誌「あしたには」を

作成し、世代を超えた先輩方の人生が反映されていたのではと思っております。さて令和6年度の【東京同窓会】は、平成20年より開催しておりました【東京ガーデンパレスホテル】より場所を【損保会館】に移し、従来より開催時間を延長して同窓生の皆様の懇親時間を取るようにし、参加費の引き下げを行います。同窓生の皆様方の益々のご参加を期待しております。最後になりましたが、皆様のご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます

「私と海音寺氏」



大口高等学校関西支部同窓会
相談役 川畑史朗

新年おめでとうございます。

昨年の「茜雲」12月号にて大口出身の文豪海音寺潮五郎氏のご長男とご家族が大口高校創立百周年記念事業として校内に建立された校歌の記念碑を見学されたとのニュースを拝見しました。

私は昭和41年に大口高校を卒業しましたが、昭和43年（1968年）、20歳の春に当時の大口市福祉会館で、海音寺氏の「明治百年」と題したご講演を拝聴しました。私は、いわゆる団塊の世代の人間で、昭和の時代を40年、

平成を30年、そして令和を六年生きて参った者ですので、「昭和は遠くなりけり」との感慨を持つこの頃です。

ただ、大口高校の校歌は、海音寺潮五郎作詞、古関裕而（朝ドラ「エール」の主人公）

作曲という素晴らしい校歌であります。今後共末永く、大口高校生に歌い継がれ愛されていくことを心から願うものであります。皆様との再会を楽しみにいたしております。

大口高校 OB の活動

■昭和57年卒大口高校商業科還暦同窓会



2023年11月18日(土)に伊佐市「みち潮」にて、昭和57年卒大口高校商業科の還暦同窓会が行われました。42年の時がたっても、40人以上の参加者があり現在商業科はありませんが、その当時からの繋がりは今でも健在して

います。残念ながら参加できなかった故人もいらっしゃいましたので、それを偲び多くの方達の協力で追悼供養花火を上げられました。

■第2回鹿児島県高校サッカー一部OB交流フェスティバル開催



2023年12月2日(土)・3日(日)、ピーラインスポーツパーク始良(始良総合運動公園)にて「第2回鹿児島県高校サッカー一部OB交流フェスティバル」が開催されました。チーム大口高校は初戦「鹿児島実業」と対戦。前半1点先制されるも2-1と逆転勝利を収め、その後「鶴丸高校」を2-0で下し、初日を全

勝で駒を進めました。2日は「鹿児島商業」と対戦、善戦しましたが0-5で敗退しましたが、平均年齢51.2歳でまだこんなにサッカーが楽しめるとは、と皆さん笑顔で楽しんでいらっしゃいました。

■第一回伊佐ラグビー交流試合

2024年1月28日(日)に伊佐市陸上競技場にて、第一回伊佐ラグビー交流試合が行われます。
選手は往年のシニアの方々で、大口高校ラグビー部の方々も何人か参加されるそうです。
鹿児島チームは「桜感ラグビーフットボール倶楽部」です。
「まだまだキバッド!」とシニアパワー全開気迫の試合を、地元伊佐市の競技場に観戦にいきましょう!
懐かしい名選手に出会えるかもしれませんよ。

タイムスケジュール及びマッチメイク	
10:00	開会式
10:30 ▼ 11:15	OVER60 ※赤以上は20分ハーフ 迷感 VS 桜感
11:25 ▼ 12:20	OVER60 ※赤以上は20分ハーフ 熊感 VS 玄海OP
12:20 ▼ 13:15	UNDER60 ※白組は25分ハーフ 迷感 玄海OP VS 桜感 熊感
アフターマッチファンクション 会場:スタジアム会議室 AMFは試合が終わったチームから順次行ってください。 解散・見送り	

大口高校生の活動

■鹿児島銀行大回支店で大回高校「地域とともに歩む大回高校」回पी展を開催



2023年12月、鹿児島銀行大口支店で大口高校の特色ある教育活動や生徒たちの活躍を紹介するロビー展を開催しました。今回のテーマは「地域とともに歩む大口高校」で、総合的な探究の時間における音楽やダンスイベントの企画、伊佐米を使った新しい特産品「大口高校米(マイ)クッキー」の開発など、大口高校

生が地域の活性化に向け活動する姿を紹介しました。また、様々な地域のボランティア活動に積極的に参加する生徒の様子や、今年初めて開催した市民講座「大口高校ふるさと歴史講座」など、大口高校が地域とともに歩み続ける姿も展示しました。

■伊佐にヒカリプロジェクト2023



今年は大口ふれあいセンターが閉鎖されており、菱刈のまごし館で開催されることになりました。大口高校からは1~3年生の男女10数名が準備の段階から当日の運営までボランティアで参加しました。今年も、大口高校のブースも出でて、オリジナルグッズなどを販売しました。もちろん、大口高校米(マイ)クッキーも出品しました。ライトアップは2月24日までです。